

# SDGsの取り組み

鈴鹿学園では、「生命の尊さ 感謝の心を育む」という教育方針のもと、一人ひとりの子どもたちがあがまの姿で育っていくことを目指しています。

これからの社会を担う子どもたちには、今の地球、今の社会をより良い姿にしていけるようにSDGsの目標達成に大きくかかわってほしいと願います。

そのため、本園では、SDGsに次のように取り組んでいます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



現代の世界は、貧困や紛争、気候変動、感染症など数多くの課題に直面しており、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなると心配されています。

そんな危機感から、2015年9月の国際連合のサミットで、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、課題を整理し解決方法を考え、2030年までに達成すべき具体的な目標を立てました。それが、SDGsであり、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」です。「地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)」という誓いのもと、人間、地球および繁栄のための行動計画として、「貧困」「健康と福祉」「教育」「働きがい」「気候変動」など17の目標と169のターゲットで構成されています。

国際連合が掲げるSDGsは、将来にわたって世界中の人々が豊かに暮らしていくために達成すべき17の目標です。保育園、幼稚園、認定こども園は、SDGsが目指す「持続可能な社会」の創り手である子どもたちに対して、保育や幼児教育を通し、「持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)」に取り組むことが求められます。

# 鈴鹿学園におけるSDGsの取り組み



## 1 貧困をなくそう

子どもたちが毎日小さな問題と向き合う過程を大切にすることは、将来子どもたちが社会問題と向き合うための大切な力となります。本園では、仏さまの教えにあるように「自分だけが良ければよいのではなく、みんなが毎日笑顔にあふれることを願う」気持ちの大切さを学びます。

また、教育方針のサブタイトルには「あがまの姿で一人ひとりを育てる」とし、園運営基本方針には「明るく楽しい園づくり」を据えるなど、子どもだけでなく保護者の方々も幸せに感じる幼児教育を目指しています。

心の貧困、といった言葉もありますが、こうした教育方針や園運営基本方針のもとに、子どもたちが豊かな心になるための体験ができるよう、一人ひとりの子どもに寄り添った丁寧な教育活動を心がけています。



## 2 飢餓をゼロに

私たちは、食事を通してさまざまな生き物から命をいただいています。仏さまの教えに基づいて感謝する気持ちを大切にしたいと思います。

それぞれの園には「畑」があり、作物を育てることにより作物の成長を学ぶとともにそれらの作物を収穫し、持ち帰って食するなど「食のサイクル」を体感する「食育」に取り組んでいます。この取り組みにより、食べ物への興味を育み好き嫌いをなくすとともに、食べ物があることへの感謝の気持ちをも持ち、飢餓問題の知識を高める取り組みを行っています。



## 3 すべての人に健康と福祉を

地域の保険会社と連携し、ご家庭から出されるペットボトルのキャップの回収を通して世界の子どもたちにワクチンを贈る「エコキャップ回収運動」に取り組んでいます。収集したキャップは保険会社を通して活動に参加しています。



4 質の高い教育を  
みんなに



## 4 質の高い教育をみんなに

遊びを通して、「生きる力」の基礎となる体験が人間関係を築いていけるよう、子どもたちの学びのスタートに取り組んでいます。

製作や音楽、えいごやスポーツなど多様な教育活動や体験を重視するとともに、そうした学びが主体的に行われるような環境作りにも積極的に取り組んでいます。

教員は日々のOJTだけでなく、「実技研修」や「専門研修」にも積極的に参加し、質の高い教育の実践を目指しています。



5 ジェンダー平等を  
実現しよう



## 5 ジェンダー平等を実現しよう

女性が多数を占める幼児教育業界にあって、本園は男性の教員を採用し、男性と女性がそれぞれの強みを発揮するとともに苦手な場面を補ったり助け合ったりしながら教育活動を進めています。

こうした取り組みが、子どもたちには世の中には男女が当たり前のように存在し、お互いが対等の立場で助け合うのが大切という心の在り方を自然と学んでいくものと考えています。



6 安全な水とトイレを  
世界中に



## 6 安全な水とトイレを世界中に

地球温暖化防止や自然環境保全の立場から日々の園生活の中で「節水」を心がけ、園児に節水を呼びかけるとともに、教師自らも十分に留意した生活スタイルを心がけています。



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



## 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

「節電」することは、持続可能な社会を目指すためには重要なことであると考え、全教職員が節電に取り組むのはもちろんのこと、その姿を子どもたちに見せることで子どもたちも節電を心がけるようになって考えています。



8 働きがいも  
経済成長も



## 8 働きがいも経済成長も

教職員の一人ひとりのワークライフバランスを考え、働き続けることができる働きやすい職場を目指します。

教職員の希望する研修会への積極的な参加を図り、個々の教員のスキルアップを後押しすることで働きがいを持ち、教職員としての満足度を上げることを目指しています。



10 人や国の不平等を  
なくそう



## 10 人や国の不平等をなくそう

園生活の中では、個人のプライバシーに考慮しながらも大人も子どもも対等の立場であることを重視しています。

本園は龍光寺（臨済宗 東福寺派の寺院）を母体としており、仏教保育を実践していますが、外国をルーツに持つ子どもはもちろんのこと、仏教以外の宗教の子どもにも門戸を開き、受け入れを行っています。



11 住み続けられるまちづくりを



## 11 住み続けられるまちづくりを

地域に住む未就園児(年齢を問わず)が幼稚園の施設や遊具を使って遊ぶ機会を「ひよこひろば」として開設し、保護者の方々の育児に関する相談を受ける地域の子育て支援センターとしての機能を期待し、園庭開放を行っています。

また、火災や地震などの災害のリスクへの備え(備蓄品)をするとともに、定期的な避難訓練を実施しています。



12 つくる責任 つかう責任



## 12 つくる責任 つかう責任

本園の給食は、幼稚園に隣接している給食室で調理されています。日頃より保存できる食品、調味料等は回転(ローリング)させながら、備蓄(ストック)することで災害時にも対応できるよう配慮し無駄のない調理を工夫しています。

また、園の取り組みとして生産者さん、調理員さんへの感謝の気持ちをもつことで、きれいに食べられるよう廃棄物ゼロを心がけています。

そして各所同士(生産者、調理員、消費者)が、連携を取り合うことでつくる責任、つかう責任が果たされています。



15 陸の豊かさも守ろう



## 15 陸の豊かさも守ろう

給食で食すお米は、市内の農家さんが健康で丈夫な稲を育てる「土づくり」に工夫を凝らしていることで、安心、安全かつ温度管理されたコシヒカリを届けてくれます。

幼稚園の畑でも、写真のような立派な野菜が毎年収穫できるのは、職員が普段からの土づくりと手入れを大切にしている成果です。自然のありがたさと、作物ができるまでの体験を一緒に行うことで、陸の豊かさを知るきっかけになるよう努めています。



16 平和と公正をすべての人に



## 16 平和と公正をすべての人に

幼児教育のプロとして地域の子育てに貢献できるように努めています。また外国籍のお子さまの教育にも携わり、日本の子どもたちと同じステージ

で同じ幼児教育がなされることにより、子どもたちに平和の心と公正さをはかっています。

また、子どもに対する虐待を発見した際には、幼稚園の責務として関係機関と連携を取り子どもたちの人権を守るため善処します。



17 パートナーシップで目標を達成しよう



## 17 パートナーシップで目標を達成しよう

子どもたちが定期的に地域の老人施設を訪問、ビデオレターを送るなど、強いつながりを持っています。また、地域の店舗との交流も長く続けており、こうした取り組みにより、それぞれの施設や店舗をパートナーの一つと考えて園を運営しています。

